～多くを望むと子ども達を迷わせてしまう。～

子どもたちは天才かと思うぐらい、日々驚くほど多くのことを吸収しながら成長しています。昨日できなかったことが、今日できてしまうこともあります。

そんな天才かと思う子ども達に期待を込めて、私たち大人が「あれもできるように」「これも身につけてほしい」と多くを望みすぎると、かえって子どもたちを迷わせてしまうことがあります。

特に幼児期は、学びが形になった「勉強」ではなく、遊びや生活の中で自然に広がっていく学習が中心です。そのため、大人が「やらせたい学習」をあれもこれもと多く用意すると、子どもにとっては「迷ってしまう学習」になり、学ぶ楽しさや意欲そのものを感じられなくなったり、削いでしまうことがあります。

本来の学びは「もっとやりたい！」「やってみたい！」という気持ちから始まります。「もっとやりたい！」「やってみたい！」が持続できるちょうど良い量を配慮してあげ、増やすのであれば少しずつ増やす様にしたほうがいいでしょう。

遊びの中で「なぜ？」「どうしたら？」と考え、工夫していく過程を持つ事こそが子どもにとっての大切な学習です。

※幼児期の興味関心の振り幅が大きいので、「あれもこれも」手を出し飽きやすい子に見えることもありますが、自分に合ったのめり込める「もの」を探しているのかもしれません。

学習や経験をする中で、一斉活動や練習（運動会、発表会、知育など）を通して「みんなで同じことを経験する」ことも必要ですが、それ以上に、子ども一人ひとりが自分で選んで挑戦する遊びや学びを大切にしていき、その中で自分のペースでできるようになったことを少しずつ積み重ねていくことが、将来の学習意欲の土台になります。

私たち大人にできることは、「あれもこれも」と詰め込むことではなく、子どもが今やっていることにじっくり取り組める環境を整え、できたことを一緒に喜び、安心して挑戦できるよう支えていくことだと考えています。

最後に、子どもにやって欲しい活動は大人も一緒に楽しめる、一緒に対話ができるものが長続きすることが多いです。